

ID: 患者氏名: 様

	入院当日		治療当日			月 日		治療後1日目		退院日	
	月 日		治療前	治療中	帰室後		月 日		月 日		
目標	入院から退院までの経過がわかり、治療を受ける準備ができる。			痛みや出血、血尿がなく過ごすことができる						退院後の過ごし方がわかる	
説明指導	入院生活について説明します 医師から病状・治療についての説明があります。 			麻酔は腰椎麻酔を行います。	治療終了後の面会は入退室記録用紙への記載が必要になります。面会時に看護師が詳しく説明します。		尿道カテーテルを抜いた後は、線源の脱落に注意してください。入院中に線源が脱落、排泄されたときは線源に触れず、看護師にお知らせください。		退院後の生活について説明があります。放射線防護パンツを希望される方は看護師までお申し出ください。 		
治療処置点滴			点滴の管を入れ、8時30分頃から点滴をはじめます。 	胸に心電図のシールを貼り、腕に血圧計を巻きます。指に体の酸素を測る機械をつけます。看護師の介助で横向きになります。膝を抱えて背中を丸くします。背中消毒してから、麻酔の注射をします。麻酔の注射が終わったら、看護師の介助で仰向けで寝ます。	時間毎に血圧、熱の変化をみます。  下腹部から陰部に掛けて放射線防護用エプロンをします		9時と16時に抗生剤の点滴をします。点滴が終わったら、点滴の管を抜きます。		治療カードをお渡しします。脱落線源を入れるための鉛コンテナをお渡しします。		
検査	尿の勢いを調べる検査と残尿の測定を行います。			治療終了後に骨盤部のX線検査と膀胱造影の検査があります。			血液検査、X線検査（線源の位置を確認するため）があります。CT検査があります。 		尿の勢いを調べる検査と残尿の測定をします。 X線検査があります。		
内服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。内服薬は基本的に継続内服とします。就寝時、下剤を内服します。		安定剤を7時に飲みます。				前立腺の腫れを抑え、尿を出やすくする薬の内服が開始となります。		抗生剤の内服を開始します。退院後に続けて内服する薬がでます。 		
生活行動安静度	特に制限はありません 		9時頃、治療室へ移動します。それまで病室で安静にしてください。	治療する部屋へ移動し、看護師の介助で治療台へ移動します。	ベッド上で安静にさせていただきます。  下肢の静脈血栓予防のためフットポンプで足のマッサージをします。		9時から室内を歩行できます。12時から病室外に出ることができます。		退院手続きが完了するまで病室でお待ちください。退院後、出血を予防するため1ヶ月は自転車・バイクなど股間を圧迫する乗り物には乗らないようにしてください。		
排泄			6時頃、浣腸をします。	尿の管を入れます。			CT検査後に尿の管を抜きます。 				
清潔	入浴、シャワー浴ができます。		病衣・T字帯に着替えます。キャップをつけます。	治療の準備のため病衣を脱いでいただきます。			体を拭きます。 		退院後は入浴ができます。 ※出血を予防するため熱いお風呂や長風呂はさけてください。 		
食事	基礎疾患（糖尿病・高血圧など）に応じて、治療食をお出しすることもあります。 夕食後は何も食べられません。 		何も食べられません。7時以降水分を飲むことができません。		16時より水分を飲んでいただきます。夕食から食事が出ます。お粥からはじめます。 		朝食から米飯になります。 				
その他			付き添いは必要ありません。	症状の変化時はお知らせください。	痛み、尿がつまったと感じたとき、吐き気がありましたら看護師にお知らせください。		退院後に異常がありましたらすぐにご連絡ください。				

注) 予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。